

て調査を実施し、その結果を中心に他の諸資料も併用して考察した。本報告では女子高校生の衣生活に対する意識や希望の状況を中心に、高校の衣生活指導のあり方を考察した。

3. この研究の段階では、大略次のような傾向がとりあげられるように思われた。①衣生活全般が多様化し、今後は着用、構成、経営・管理の中で、着用の面こそ被服本来の如何に着るかの問題として指導する方向が必要である。②被服構成の指導は、指導内容には考慮すべき面があるが、衣生活教育では欠かせない領域である。③経営・管理的領域は今後の衣生活指導でもっと力をいれて、総合的な意味におけるものを理解させるよう扱う必要がある。この他、これらに附随する諸問題についても報告する。

G—4 衣生活の実態と高校における衣生活教育の研究(その2)

—高校における衣生活指導—

東京学芸大	大森 和子
大妻女家政	加藤 敏子
文部省職業教育	金原ちゑ子
横浜国大教育	○藤枝 恵子

1. 家庭生活の近代化にともなう、衣生活の諸変化をあきらかにし、これに対応する適切な衣生活教育の方向とその指導を志向することが目的である。この報告(その2)では主として高校の衣生活教育をどのように指導してゆくかの問題を取りあげた。

2. 昭和44年12月に女子高校生とその母を対象にし